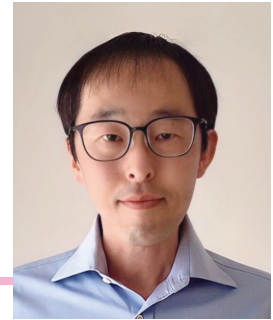


## 会員会社紹介

# 富士通株式会社

富士通研究所 技術戦略本部 技術戦略リサーチ統括部  
長谷川 一知

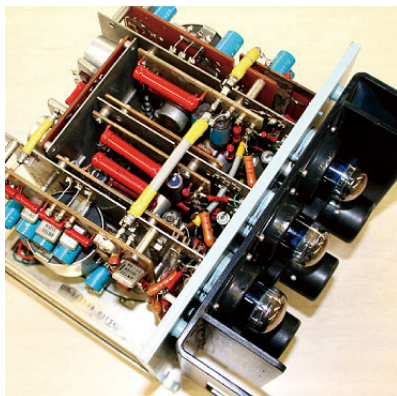


富士通株式会社について、通信事業における標準化の歴史を通して紹介させていただきます。

富士通株式会社は、1935年に通信機器製造会社として誕生しました。当時の社名は、富士通信機製造株式会社でした。富士通は「通信」という公共性の高いインフラの発展に、先端技術をもって貢献する会社として出発しました。

戦後間もない時期から、標準化との関係が始まりました。当時の逓信省により設置された通信技術委員会が標準化された規格に対応した搬送装置を開発し、1947年に逓信省他に納入を開始しました。

1950年代には、欧米より、通信方式・機器をCCITT（当時はCCIFとCCIT）に準拠する必要性が唱えられ出し、発足間もない日本電信電話公社（電電公社）がCCITT準拠の方針を打ち出したことから、富士通は独シーメンス社と技術提携して、CCITT勧告に準拠する同軸ケーブル方式の960通路路システムを開発し、日本の基幹網への広帯域同軸方式の導入実現に寄与しました（写真は1962年に独自開発に成功した後継機「C-12M真空管式同軸ケーブル搬送装置」）。



富士通は1965年から郵政省参与の資格でCCITTへの参加を始め、電電公社の代表とともに標準化活動を行いました。

1985年から、富士通としてCCITTのメンバとなり、また、同年に設立されたTTC（当時は電信電話技術委員会）に加入しました。1993年にCCITTはITU-Tに改組となり、富士通はITU-Tにおいても今日に至るまで参画を続け、標準化に寄与しています。

海外においても、米国子会社による米T1委員会（現ATIS）への加入（1984年）や、英国子会社による欧州ETSIへの加入（1991年）を起点として標準化に寄与しています。

富士通は、現在「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていくこと」をパーパスに掲げています。持続可能な世界の実現を目指し、社会課題の解決にフォーカスしたビジネスを推進するにあたり、通信に限らず、信頼できるテクノロジー・サービス、ソリューション、製品を幅広くお客様に提供しています。社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていくために、標準化が果たすべき役割は重要です。富士通は、引き続き、標準化にも取り組んでまいります。

